

緑茶カテキンのがん、ドライマウス、皮膚疾患、肥満への応用

高知大学 医学部 教授 山本 哲也

○研究シーズ概要

緑茶には、がん予防、アレルギーの抑制、ダイエット効果など、さまざまな作用が報告されているが、その詳細な機序は明らかにされていない。われわれは、緑茶の主要成分であるエピガロカテキンガレート(EGCG)の各種の細胞に対する影響ならびにその作用機序を明らかにしてきた。

なかでも、EGCGは正常皮膚細胞の成熟を促す一方で、がん細胞に細胞死を誘導すること、さらには、唾液腺傷害を抑制することによりドライマウス(口腔乾燥症)を防止することなどを明らかにしてきた。

<応用範囲／今後の展望>

